

い秩序を内外相協力して再構築せねばならない。私は新秩序形成の大試練がこの50年であると考えている。

そうした際、“自由”“秩序”を2つの車の輪として、実践と理論を探究する気持をもって進んできた同友会は、人柄といい、識見といい、指導性といい、まれにみる佐々木新代表幹事を得たわけである。これは、まさに時代が求める同友会が新しい誕生をしたというべきである。時代が求める時、古き者は去り、新しい識見の高い方が

リーダーとして入ってこられて、同友会もまた新生すべきである。

そうして、この難局に会して、大は世界人類の、小はそれぞれの社会の新秩序形成に強力に参加すべきである。

最後に、会員の皆さんに心からお願いしたいことは、佐々木新代表幹事を軸にして、同志的和を質的に高め、それを拡大強化して、同友会の存在意義を十二分に発揮していただけるよう、心から懇願申し上げて、私の挨拶といたしたい。

会員の総意をもって……………井深 大 幹事

木川田前代表幹事に対し謝辞

同氏を“最高顧問”に推薦

■井深大幹事の木川田前代表幹事に対する感謝の辞要旨

この10余年間にわたって木川田さんが同友会に対して、どんなことをやってこられたかということ、私なりの解釈で述べさせて頂いて、お礼の言葉としたい。

経済団体は、ほとんど全てが自己の利益、あるいは自分の企業の利益、同業者の利益をどうやって守ろうかということに汲々としている。これはむしろ本来の姿かもしれないが、同友会にあっては、木川田さんが同友会の創立の意思を帯されて、「決して、個々の企業中心、個人中心であってはならない、トータル・システムを考えてその中

における企業、一経営者ということで考えなくては行けない」ということを貫いてこられたのである。

したがって、私ども、個々の議論をする者には、なかなかついていけないところもあったのではあるが、そこに、他の団体などの主張するところと、大変違った、同友会は次元が高い、あるいは世論を創造する新しい場である、などという評価が下されたのであ



会員を代表し木川田氏に謝辞を述べる井深幹事

て、この評価は、木川田さんによって与えられたものだと思う。

“全体”ということを主張された木川田さんであるが、また“個”というものを非常に重視され、とくに、企業の経営者こそ、日本全体、あるいは世界全体をひっぱっていくのに、一番的確な素質をもっていると考えてこられた。それ故、経営者自身の姿勢はおろそかであってはならないと、厳しい眼をもって主張してこられたのである。

また、木川田さんほど、自由主義経済の本質に徹した考え方をもっておられた方は少ないのではないかと思う。民主主義の基盤に立って自由主義経済を行うということは、なかなか大変なことである。とくに世の中が次第に社会化していくという情勢下において、ともすれば統制経済、計画経済に巻き込まれる、あるいは経営者自身もその方がイージー・ゴウイングだという考え方に傾きがちになるが、それを戒めて、それでは自由経済が減びてしまうと木川田さんは言っておられる。

一方、技術革新に対する考え方も、今までは、資本、資源だけを中心にして量的な成長ばかりを日本経済は考えてきたが、そこに本当の秩序ある自由経済はみられなかった。しかし、成長しすぎてしまった今日に対する反省はいろいろ起きているが、本当の意味の量から質はどういうことだろうか。私はこれは、木川田さんのいっておられる、独創性、創造性、あるいはイノベーションというようなことが、本当の質的成長発展の1つの武器でなければならぬし、それをマネージし、コントロールする経営者の人間性、能力といったものをもう一度考え直さなければならぬだろうと思う。

そういう意味で、木川田さんの主張してこられたことは巾広い、時間の長いことばかりだった。10年前に木川田さんは、今日のこの変貌をはっきりと認めて、現在、われわれがあわてて対処していることを、毎年毎年叫んでこられたのである。

私をはじめ、同友会の人たちがそれぞれの企業の忙しきにとらわれていることは十分わかるが、

木川田さんの展開した理論をどれだけ実践にもっていったらどうかと考えると、淋しい気がする。木川田さんが同友会に尽されたということは、同友会そのものではなく、同友会に属している会員の一人一人が、その持場において、木川田理論の実践をもつと行えるのではないかという期待をもっておられたのではないか。

今、木川田代表幹事を送るわけであるが、まだ、木川田さんには、今までの完璧な理論を、こんどは私たちを指導して実際にトータル・システムに役立つようにしていただくという仕事が残っていると思う。そのために、私はここで皆様のご同意を得て、代表権のある会長のような形で同友会をひっぱっていただくために、例えば最高顧問というような肩書をお贈りしたいと提案する。

長い間、同友会をリードしていただき、そのご苦勞に深く感謝いたしたい。